

2017年8月22日

第7回 東アジア包摂都市ネットワークの構築にむけたワークショップ

NPO法人トツカビの成り立ちと取り組み

NPO法人トツカビ

代表理事 朴 洋幸 (ぱく やんへん)

(1) トッカビの発足

1. 発足当時の外国人

①1952年	八尾市人口	7万3,892人
	外国人登録者数	1,886人
	人口比率	2.55%

↓
外国籍者の大半が韓国・朝鮮人

②地域内世帯人口は1割

1985年頃 地域の総世帯1,200のうち100世帯程度
が在日。

2. トッカビのめざしたもの

① 1974年10月「トッカビ子ども会」として発足

主に安中地域における韓国・朝鮮人集住者を対象として取り組む。

② トッカビ発足の背景

地域内の子どもが通う中学校で、生徒による非行が問題化。

「在日の生活と現実から出発した民族教育」 を掲げ取り組む。

→進路保障であり社会環境の障壁をなくす取り組み。

民族だけでは飯くわれへん。まず生きること、その日その日のごはんの方が大切や。本名名のっても会社がつこうてくれへんかったら何にもならん。

(「トッカビ子ども会10周年記念誌」より)

(参考) 『在日外国人生徒進路追跡調査報告書』 2000年3月 (大阪府教育委員会)

大阪府立高校へ入学し、1991年～1994年に卒業した生徒で、1995年～1998年3月現在で卒業後4年目になる在日外国人生徒を対象に実施

対象者 5,275名

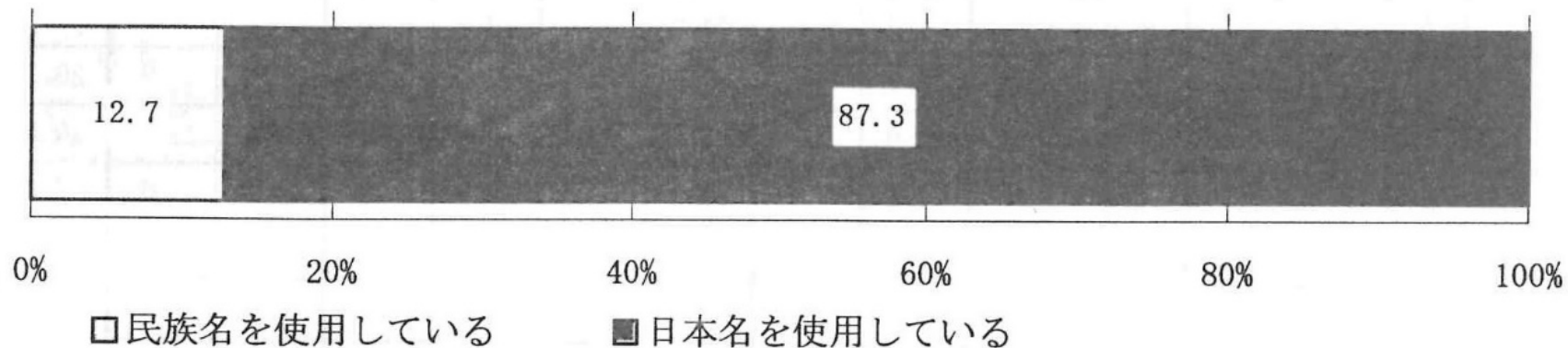
回答者数 2,224名

回収率 38.4%

(2) 民族名と日本名の使用状況について

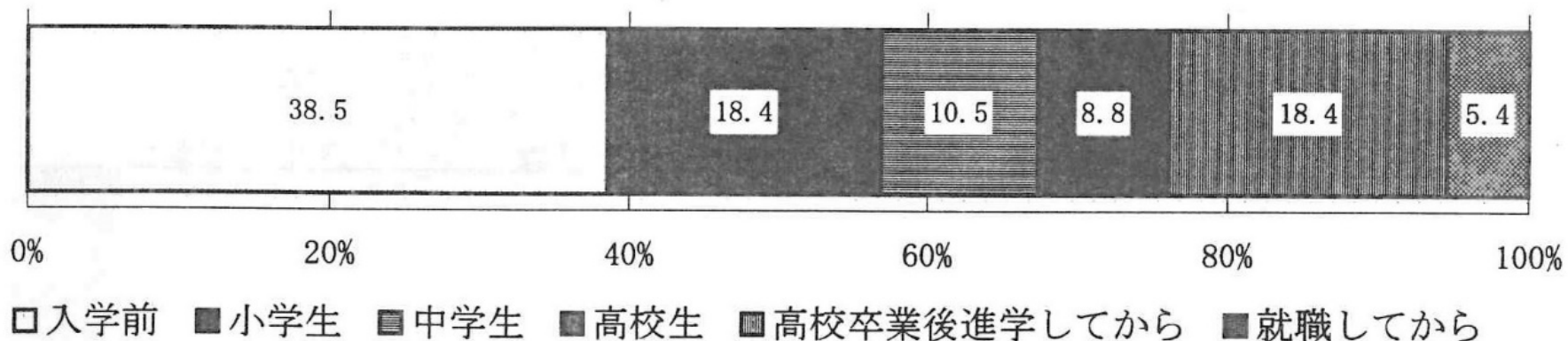
(イ) 現在の民族名と日本名の使用状況について

全体N=1990



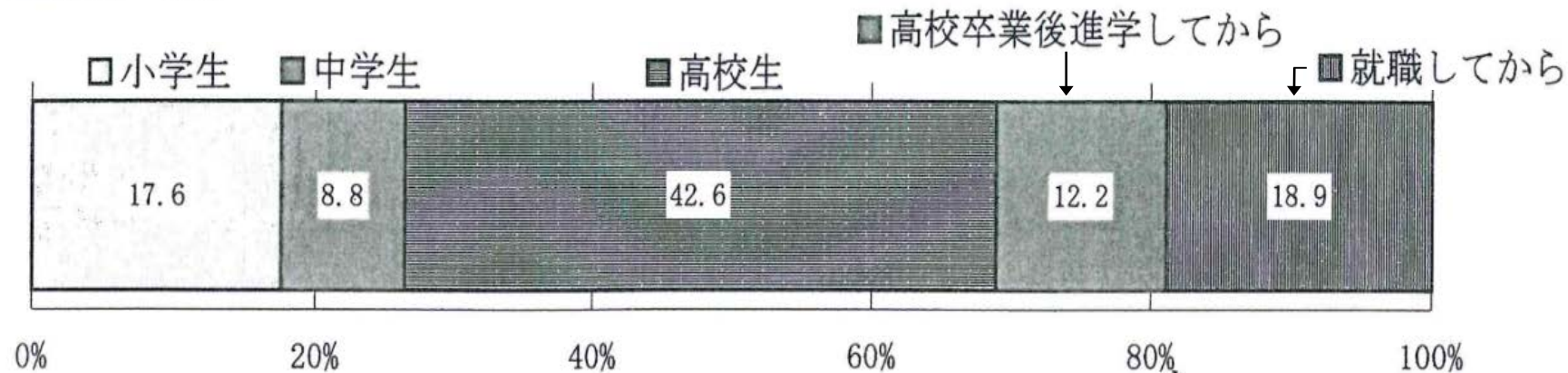
(ロ) 民族名を使用した時期について

全体N=239



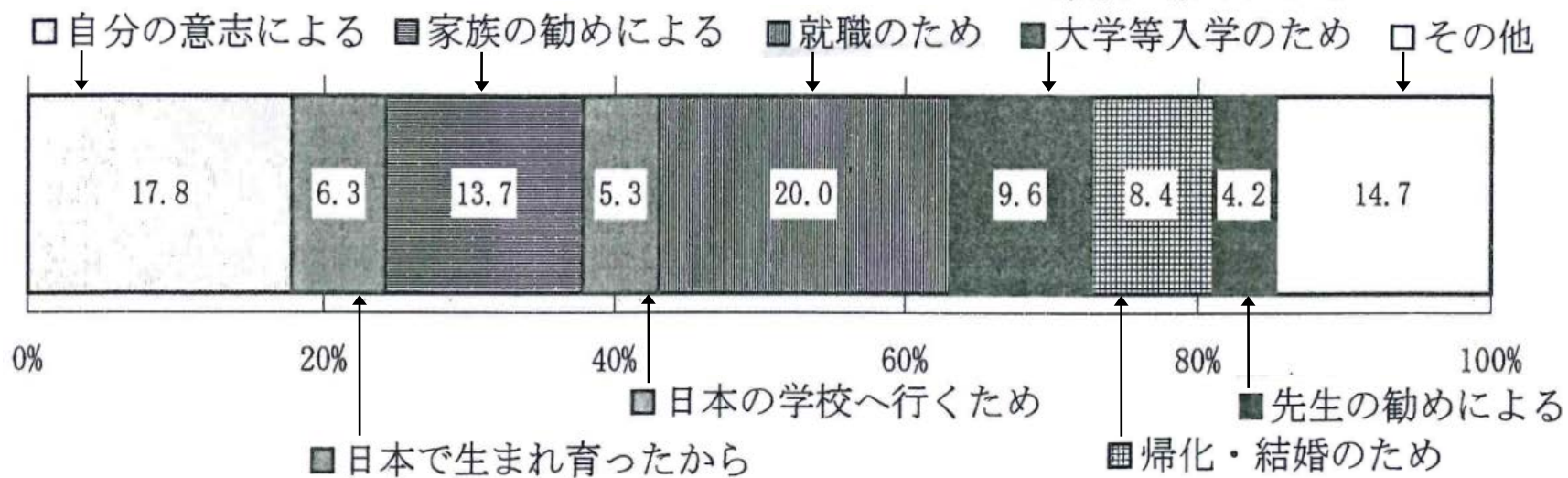
(ホ) 日本名に変えた時期について

全体N=148



(ハ) 日本名に変えた理由について

全体N=95



③制度の変革を求める闘い

- 1979年 八尾市の国籍条項撤廃。
- 1981年 国民体育大会の国籍条項問題に取り組む。



- 1983年 当時国家公務員であった郵便外務職の受験を拒否されたことを受け、「李君・孫君を困む会」発足→翌年撤廃。

(2) 新たな「外国人」・多民族・多文化社会の到来

1. 八尾市の外国人

①八尾市の外国籍者数 (2016年12月現在)

韓国・朝鮮	3,183人
中国	1,858人
ベトナム	1,239人
フィリピン	206人
タイ	64人
その他	380人
総数	6,930人

国籍・地域数

48

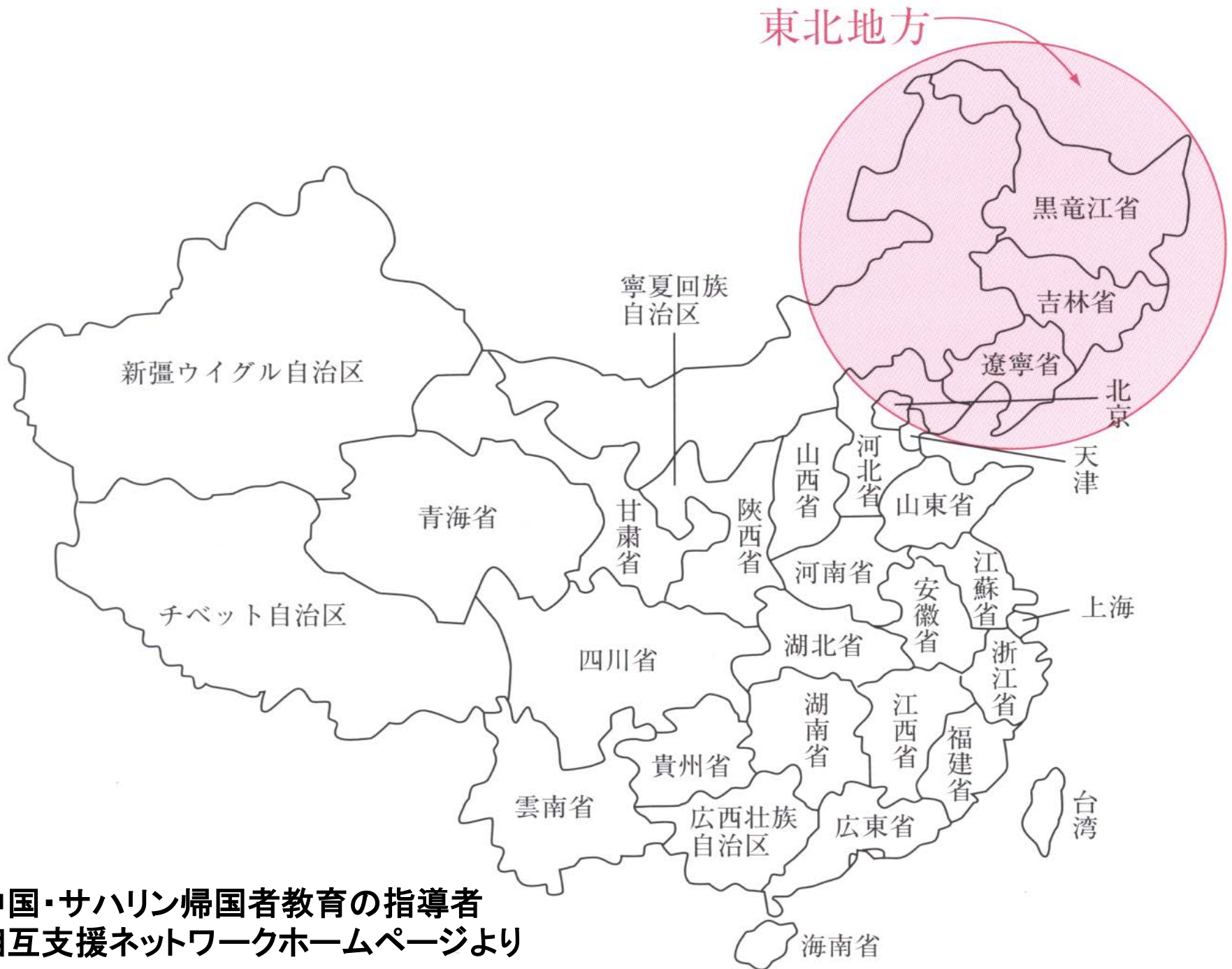
(無国籍含む)

八尾市人口比率

2.58%

②1980年代より、中国人、ベトナム人の増加で多国籍化進行

八尾市外国籍者の増減	
	<u>1981年末</u> → <u>2016年12月末</u>
総 数	7,254人 → 6,930人
韓国・朝鮮	7,118人 → 3,183人
中国	103人 → 1,858人
ベトナム	7人 → 1,239人
フィリピン	5人 → 206人
タイ	2人 → 64人



中国・サハリン帰国者教育の指導者
相互支援ネットワークホームページより



難民事業本部ホームページより



難民事業本部ホームページより



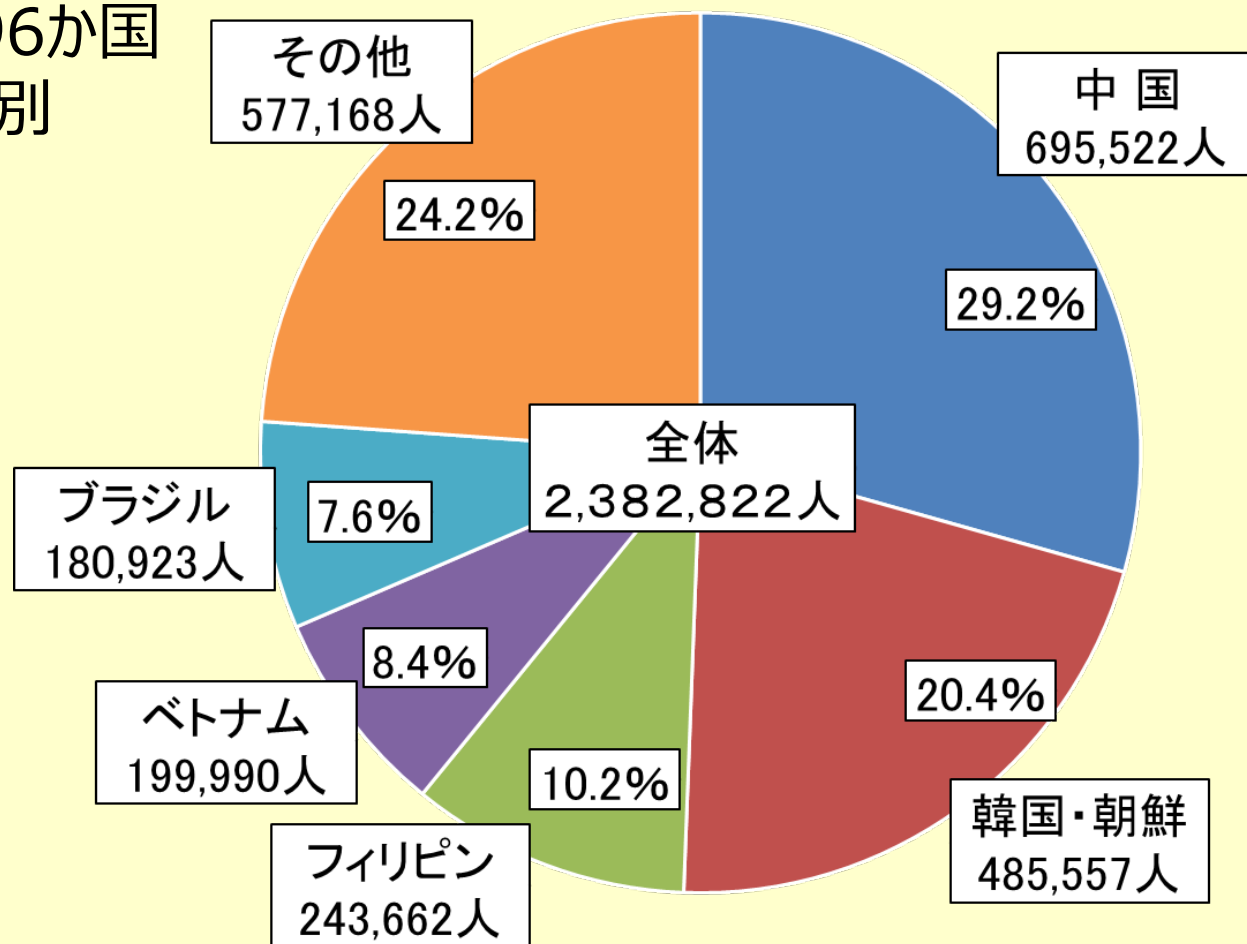
③学校現場における多文化化の進行

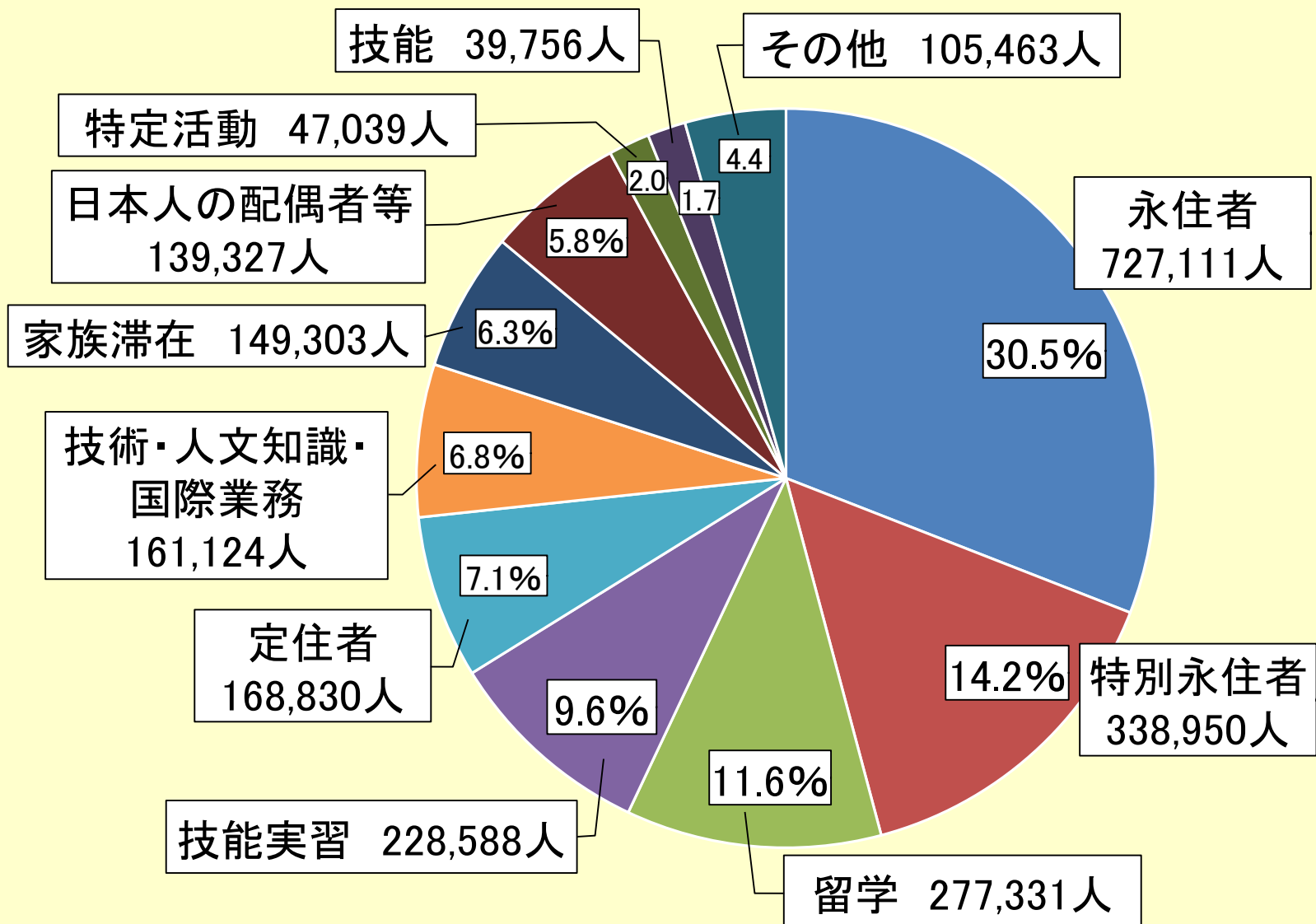
八尾市内小・中学校に在籍する外国籍児童・生徒数の増加。とくに、中国やベトナムの子どもたちが増加。

市内小・中学校 中国・ベトナム児童生徒の推移			
	<u>1990年</u>	→	<u>2015年</u>
中 国	49人	→	162人
ベトナム	17人	→	138人

(参考) 全国の「外国人」の状況

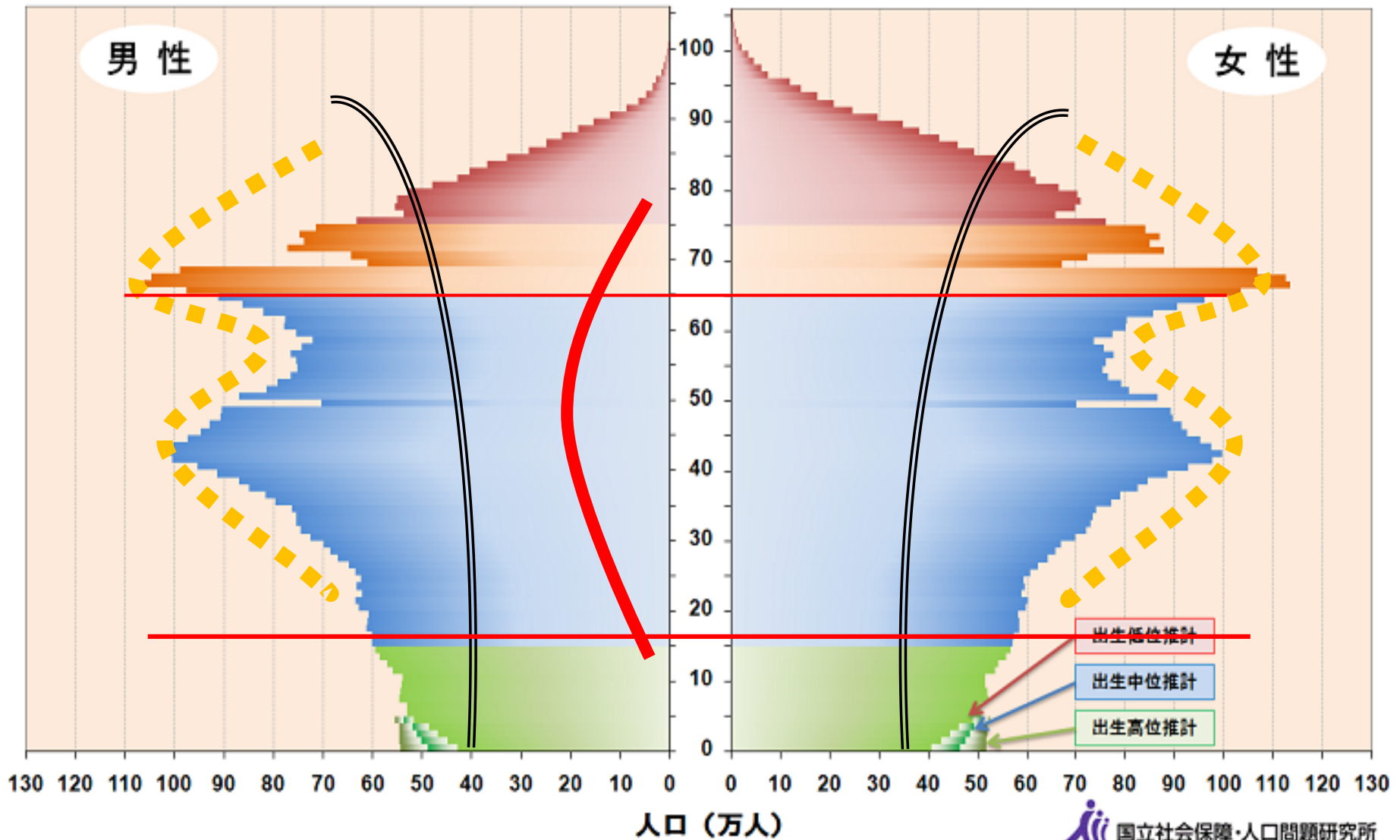
- ① 2016年末時点 238万2,822人 (前年末から15万633人 (6.7%) 増加)
- ② 日本の総人口の1.87%
- ③ 国籍・地域数196か国
- ④ 国籍・在留資格別





人口ピラミッドデータ

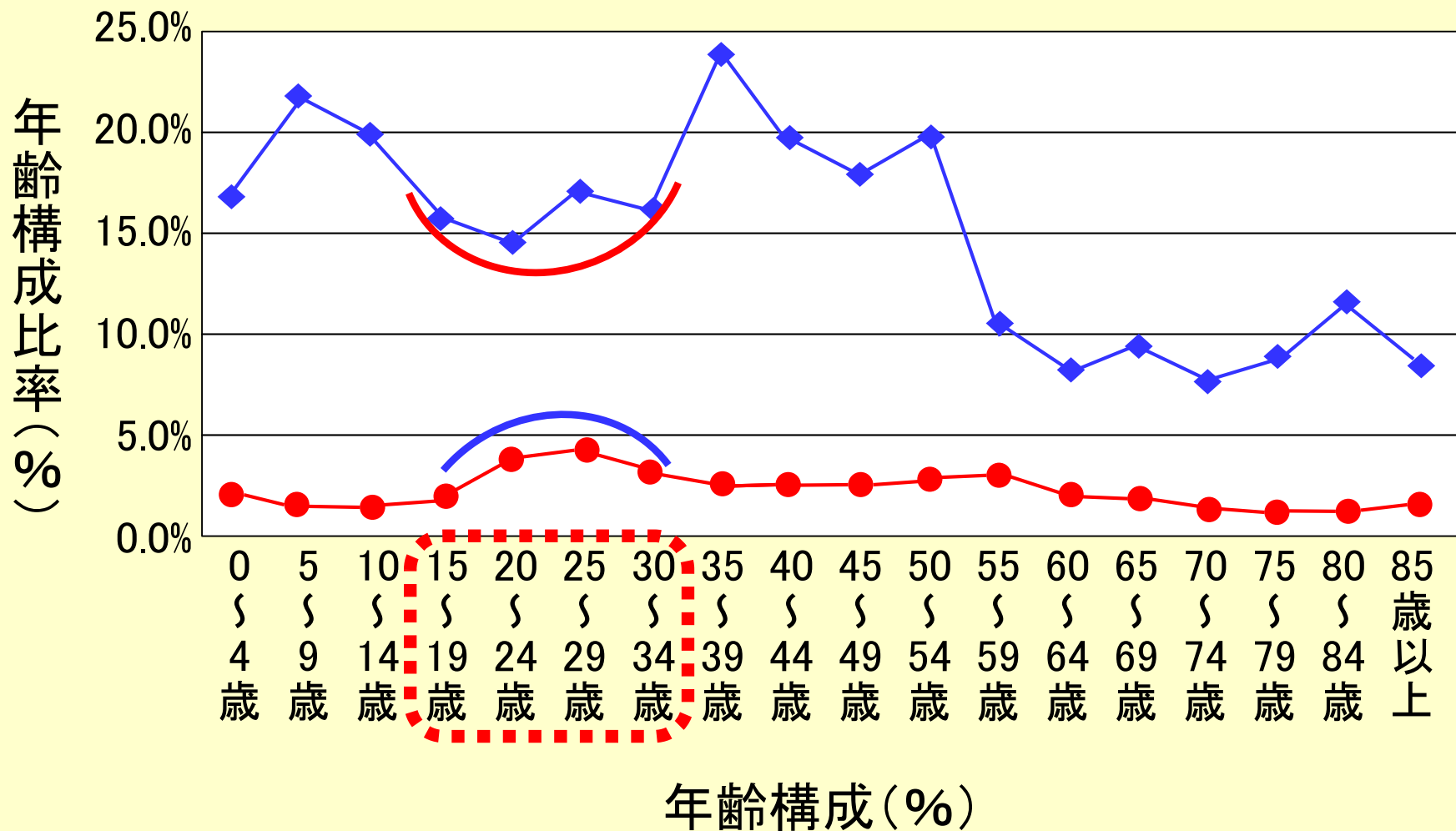
2015年



国立社会保障・人口問題研究所

資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

外国人多住地域の比率



(3) トッカビと中国、ベトナムコミュニティの紹介

1. トッカビ事業

① 外国人市民相談事業（八尾市受託事業）

2004年度よりベトナム語対応を含む相談事業スタート。

2008年度より八尾市より事業受託

- ・ベトナム語（週4日）

- ・中国語、韓国朝鮮語（週1日）

② 2016年度実績

ベトナム語 767件（医療・保険約5割）

中国、韓国朝鮮語 184件（医療・保険約8割）

②異文化ルーツの子ども事業

a. ルーツ語（継承語）教室
（毎週土9:00～12:00）



b. 中学・高校生学習支援
（毎週土18:00～20:30）



c. 青年活動（RinG）



③日本語教室（毎週火19:00～20:30）



④学習講座 & 交流サロン



⑤八尾国際交流野遊祭（27回目を10月29日開催予定）

八尾国際交流野遊祭

出会い・交流・共生



2. 八尾ベトナム人会

八尾市に住むベトナム人同士の親睦と地域住民との理解促進を目的に1998年に発足。

主な行事に旧正月を祝う「祝八尾テト」、中秋のイベントとして「中秋節」を開催。

東日本大震災時には、会員からカンパを募り、募金と非常食としてインスタントカップ麺を八尾市を通じて届ける。



民家を改装した寺には本国から運んできた仏像がまつられている。毎日10人ほどが訪れ、お経を上げる。旧正月には約200人が集まったという

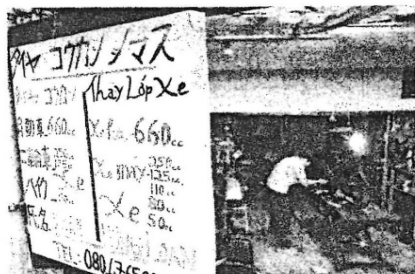
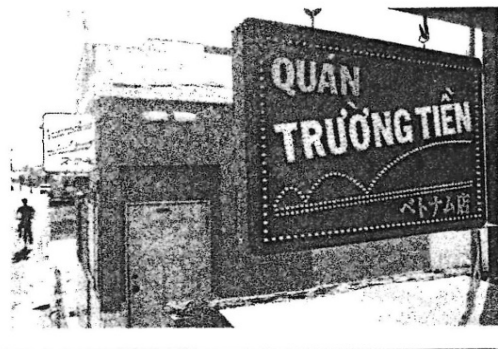
「ヴァー、パー、ビー」
発音練習をする子供たちの声が響く。毎週土曜日、八尾市内の施設で開かれているベトナム語教室だ。周辺に暮らすベトナム人の小中学生約30人が通っている。ほとんどが日本生まれだ。
同市は30年ほど前、ベトナム戦争終結後の混乱で、日本に逃れた難民を市内の雇用促進住宅に受け入れた。これをきっかけに定住する外国人の中でもベトナム人は多く、高美・安中地区を中心に約1000人が生活する西日本最大級のコミュニティになっている。

八尾のリトル・ベトナム

地区にはベトナムの食材を扱う店や、ベトナム語のカラオケ店などベトナム人向けの十数店が点在している。八尾ベトナム人会の会長ラ・コック・トウアンさん(49)は「八尾は住み心地が良く、行政も色々と助けてくれるので感謝しています」と話す。
今年1月にはベトナム仏教の寺が完成した。日本で暮らすベトナム人約300人の寄付で築35年の民家を購入し、みんなが力を合わせ4か月かけて改築した。
信心深い人が多いベトナムの人々の異国での心のよりどころとなっている。(写真部・野本裕人)

おおさか 写真散歩

地区にはベトナム語の看板を出す店が点在する。ベトナム料理店は本場の味が楽しめる日本人にも人気だ



日本語とベトナム語の看板を出すバイク修理店も



市内のNPOが行っているベトナム語教室。母国語の読み書きが出来ない子供たちを対象に11年前に始まった



3. 八尾市中国帰国者支援交流会

主に八尾市における中国残留孤児の2, 3世の家族の日本語支援と交流、地域住民との理解促進の取り組みを実施。2014年発足。

毎週火・金曜日（10:00～12:00）日本語教室の開催。

中国料理交流会、春節を祝う新年交流会の実施。また、八尾国際交流野遊祭へも毎年出演と出店している。

